



兵庫労働局発表
平成28年1月28日

報道関係者 各位



[照会先]

兵庫労働局労働基準部

安全課

課長 福田 恵匡

課長補佐 小川 江造

安全主任 藤井 啓文

TEL. 078-367-9152

FAX. 078-367-9166

兵庫県内における平成27年の労働災害発生状況（速報）

～死者50人（前年同期より10人増加）～（全国ワースト2）

兵庫県内における平成27年1月～12月の労働災害発生状況（速報値）を取りまとめましたので、公表します。

平成27年の労働災害による死者数は50人で、前年同期より10人増加し、都道府県別では北海道（63人）に次いで全国ワースト2となっています。また、死傷者数（休業4日以上）は4,215人となり、前年比で39人増加しています。

(1) 平成27年の死亡災害（速報値）

・労働災害による死者数は50人（前年比+25% (+10人)）となっている。

業種別では、陸上貨物運送業が11人で最も多く、次に製造業と建設業が10人となっています。

原因別では、墜落・転落（14人）、はざまれ・巻込まれ（10人）、交通事故（8人）の順に多い。

・第三次産業（運輸交通業、貨物取扱業除く）では17人となり、昨年（10人）より大幅に増加し、うち、商業で5人、廃棄物処理業で4人、警備業で3人の順となっている。

(2) 平成27年の死傷災害（速報値）

・労働災害による死傷者数（休業4日以上）は4,215人（前年比+0.9% (+39人)）となっている。

・業種別では、製造業1,058人（-0.7% (-7人)）、陸上貨物運送業530人（+9.3% (+45人)）、

小売業499人（+5.5% (+26人)）、建設業464人（-18.9% (-108人)）、社会福祉施設303人（+22.7% (+56人)）、飲食店160人（+7.4% (+11人)）の順となっている。

大幅に増加した死亡災害については、「墜落・転落」、「はざまれ・巻込まれ」で全体の半数を占めており、これらの多くは基本的な安全対策の不徹底によるものと認められます。

死傷災害が増加した背景としては、景気の回復による産業活動の活発化に伴い、多くの業種で人材不足が顕著化していることを背景に、定年延長や退職者の再雇用による高年齢労働者の増加並びに経験の少ない労働者の占める割合が増加し、高年齢労働者については身体機能の衰え、経験の少ない労働者については安全衛生教育の不徹底やそれに伴う不安全行動を行うなどにより、それぞれ被災しやすい状況にあると考えられます。

（添付資料）

- ・平成27年の労働災害発生状況（速報値）の分析（兵庫県内）
- ・平成27年死亡災害発生状況（兵庫県内速報値）
- ・平成27年労働災害発生状況（兵庫県内速報値）
- ・平成27年死亡災害発生状況一覧

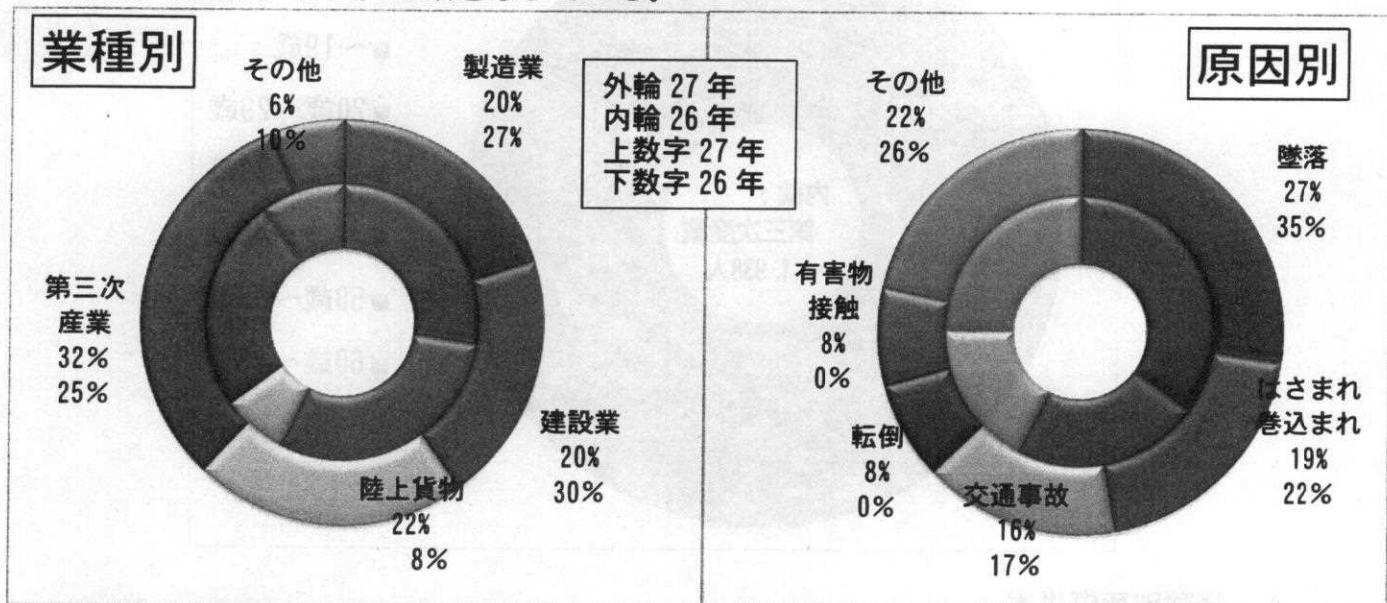
平成 27 年の労働災害発生状況（速報値）の分析（兵庫県内）

1 死亡災害発生状況

平成 27 年の全産業における死者数は、50 人で、前年同期に比べて 10 人 (25.6%) と大幅に増加している。

業種別に見ると、陸上貨物運送業（11 人）、製造業（10 人）、建設業（10 人）で多発しており、昨年と比べると特に陸上貨物運送業と第三次産業で大幅に増加している。

原因別で見ると、「墜落・転落」（14 人）、「はまれ・巻き込まれ」（10 人）、「交通事故（道路）」（8 人）の順となっている。

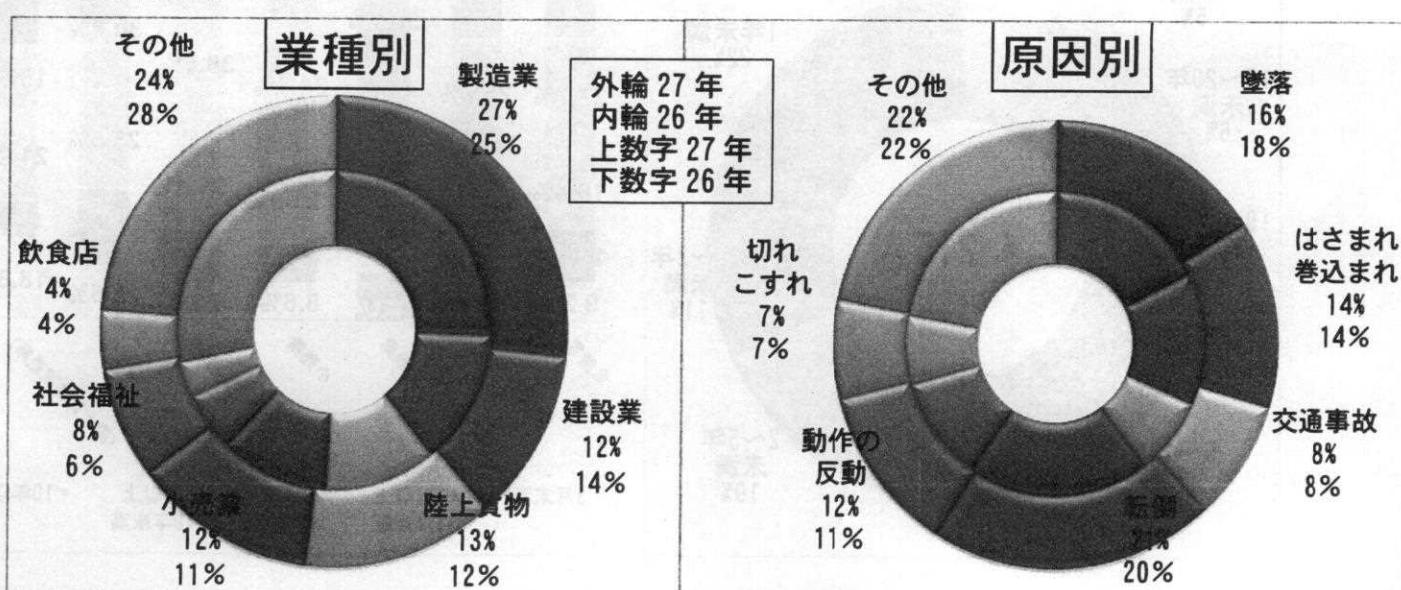


2 死傷災害発生状況

平成 27 年の全産業における死傷者数（休業 4 日以上）は、4,215 人で前年同期に比べて 39 人 (0.9%) 増加している。

業種別で見ると、製造業（1,058 人）、陸上貨物運送事業（530 人）、小売業（499 人）、建設業（464 人）、社会福祉施設（303 人）、飲食店（160 人）と、前年と同じ順で多く発生している。

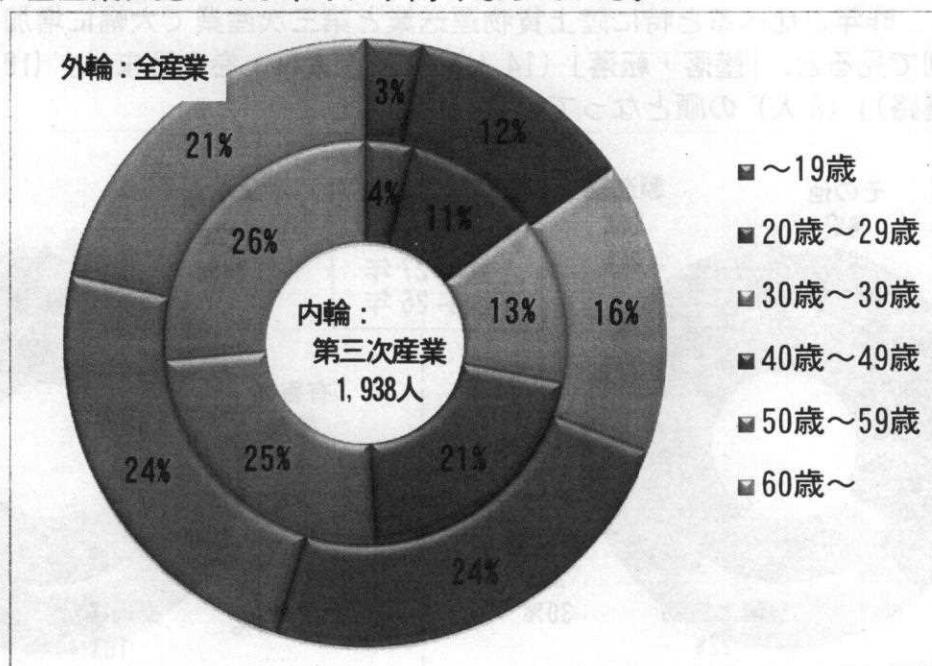
原因別で見ると、「転倒」（884 人）、「墜落・転落」（677 人）、「はまれ・巻き込まれ」（569 人）、「動作の反動・無理な動作」（504 人）順となっており、前年に比べ大きな変化は見られない。



3 死傷災害の年齢別発生状況

年齢別に占める割合は、全産業では40歳～49歳(24.0%)、50歳～59歳(23.8%)、60歳以上(21.4%)の順となっている。

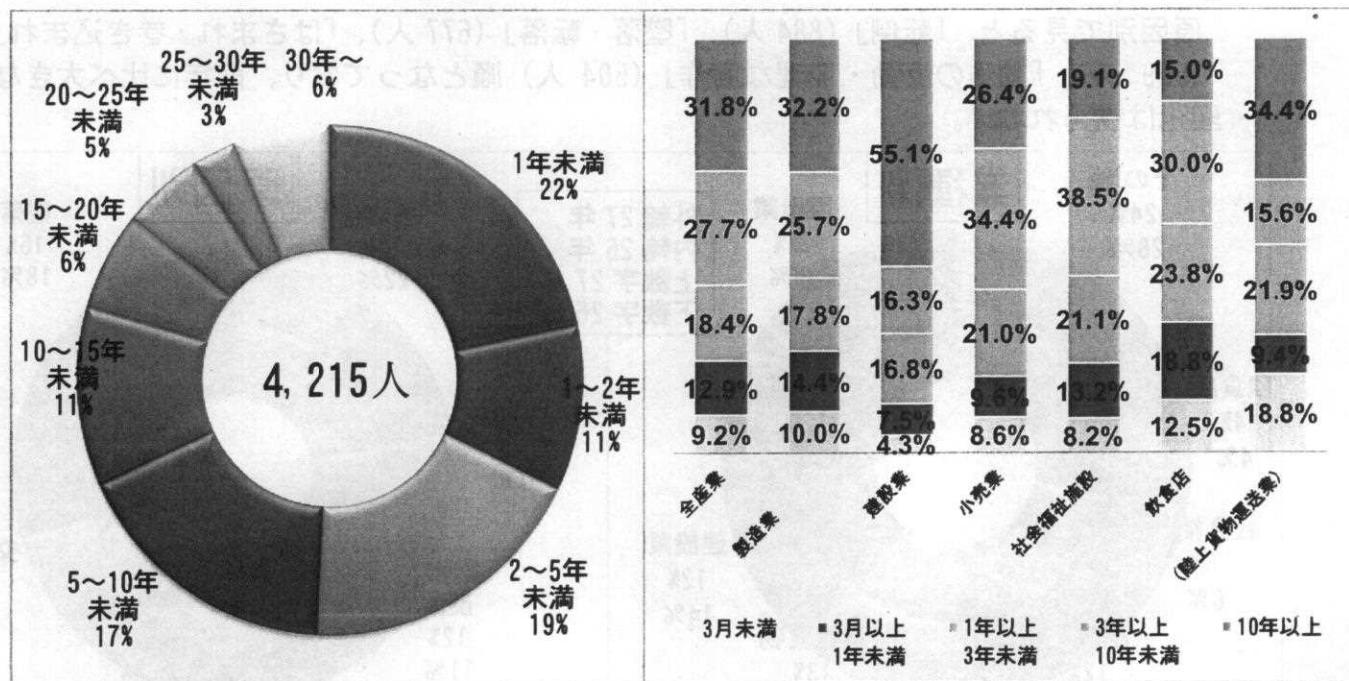
死亡及び死傷災害とも増加した第三次産業を見ると、60歳以上(26.4%)、50歳～59歳(24.5%)、40歳～49歳(20.9%)の順となっており、50歳以上で全体の51%を占め、全産業に比べて6ポイント高くなっている。



4 経験別死傷災害

死傷者の経験年数で見ると、1年未満(21.7%)、1年以上2年未満(10.5%)、2年～5年未満(18.7%)を占めており、5年未満で全体の半数以上(50.9%)、10年未満では約7割を占めている。

業種別でみると建設業で10年以上が半数以上を占めているが、陸上貨物運送業や飲食店では3年未満が半数を占めている。



平成27年 死亡災害発生状況(兵庫県内速報値)

作成日 平成28年1月4日

	平成27年1月～作成日		前年同期		前年比較	
	死者数	構成率	死者数	構成率	増減数	増減率
全業種	50	100.0%	40	100.0%	10	25.0%
製造業	10	20.0%	11	27.5%	-1	-9.1%
鉱業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
建設業	10	20.0%	12	30.0%	-2	-16.7%
交通運輸業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
陸上貨物運送事業	11	22.0%	3	7.5%	8	266.7%
港湾荷役業	1	2.0%	0	0.0%	1	100.0%
林業	0	0.0%	3	7.5%	-3	-100.0%
その他の事業	18	36.0%	11	27.5%	7	63.6%

平成27年(1月~12月)労働災害の発生状況一覧表
(労働者死傷病報告により作成)

業種別の労働災害発生状況(対前年比)

【業種別の労働災害発生状況】

兵庫労働局

業種	平成27年(1月~12月)		前年同期		前年比較		
	死傷者数 (人)	構成比 (%)	死傷者数 (人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)	
全産業	4,215	100.0%	4,176	100.0%	39	0.9%	
第一・二次産業計 (運輸交通業、貨物取扱業を含む)	2,277	54.0%	2,342	56.1%	-65	-2.8%	
製造業	1,058	25.1%	1,065	25.5%	-7	-0.7%	
鉱業	6	0.1%	10	0.2%	-4	-40.0%	
建設業	464	11.0%	572	13.7%	-108	-18.9%	
運輸交通業	617	14.6%	560	13.4%	57	10.2%	
貨物取扱業	57	1.4%	56	1.3%	1	1.8%	
農林業	64	1.5%	63	1.5%	1	1.6%	
畜産・水産業	11	0.3%	16	0.4%	-5	-31.3%	
第三次産業計 (運輸交通業、貨物取扱業を除く)	1,938	46.0%	1,834	43.9%	104	5.7%	
商業	卸売業	73	1.7%	73	1.7%	0	0.0%
	小売業	499	11.8%	473	11.3%	26	5.5%
	上記以外の商業	53	1.3%	60	1.4%	-7	-11.7%
	計	625	14.8%	606	14.5%	19	3.1%
通信業	67	1.6%	53	1.3%	14	26.4%	
保健衛生業	医療保健業	108	2.6%	104	2.5%	4	3.8%
	社会福祉施設	303	7.2%	247	5.9%	56	22.7%
	上記以外の保健衛生業	6	0.1%	2	0.0%	4	200.0%
	計	417	9.9%	353	8.5%	64	18.1%
接客娯楽業	飲食店	160	3.8%	149	3.6%	11	7.4%
	ゴルフ場	71	1.7%	76	1.8%	-5	-6.6%
	上記以外の接客娯楽業	66	1.6%	82	2.0%	-16	-19.5%
	計	297	7.0%	307	7.4%	-10	-3.3%
清掃・と畜業	ビルメンテナンス業	80	1.9%	76	1.8%	4	5.3%
	廃棄物処理業	97	2.3%	108	2.6%	-11	-10.2%
	上記以外の清掃・と畜業	34	0.8%	34	0.8%	0	0.0%
	計	211	5.0%	218	5.2%	-7	-3.2%
その他の事業	警備業	53	1.3%	48	1.1%	5	10.4%
	上記以外のその他の事業	183	4.3%	175	4.2%	8	4.6%
	計	236	5.6%	223	5.3%	13	5.8%
金融広告業	43	1.0%	54	1.3%	-11	-20.4%	
映画演劇業	1	0.0%	0	0.0%	1	-	
教育研究業	35	0.8%	19	0.5%	16	84.2%	
官公署	6	0.1%	1	0.0%	5	500.0%	

注 第三次産業は通常、非工業的業種に運輸交通業、貨物取扱業を加えたものをいいます。ここでいう第三次産業の業種(商業、通信業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、その他の事業、金融広告業、非映画演劇業、教育研究業、官公署)を第三次産業と呼んでいます。

広報版 平成27年死亡災害(1月から12月末日までの把握分)

件数	災害発生		業種	事故の型	起因物	発生状況概要
	月	時間	小分類	分類項目	小分類	
1	1月	1時台	その他の金属製品製造業	有害物等との接触	有害物	ガス容器の洗浄作業中、容器内の溶剤の抜き取り作業をピット内で行っていたところ、意識を失い倒れた状態を発見された。
2	2月	13時台	その他の土木工事業	崩壊、倒壊	地山、岩石	新築工場の敷地内に貯水槽を設置するため、ドラグ・ショベルで掘削しているピット(1メートル×8メートル、深さ3.6メートル)の底部で、ならし作業をしていたところ、生き埋めとなつた。
3	2月	7時台	農業	墜落、転落	立木等	枝を足場にして剪定作業を行っていたところ、足場にしていた枝が切り落とした枝に当たって折れ、胴と枝に結んでいたロープも墜落時に解けてしまい、約12メートル下の法面に墜落した。
4	2月	10時台	警備業	交通事故(道路)	乗用車、バス、バイク	バイクで工事現場に向かう途中、右にカーブする凍結した公道で転倒した。
5	2月	4時台	製鉄・製鋼・圧延業	はさまれ、巻き込まれ	ロール機(印刷ロール機を除く)	自動運転で鋼板を圧延する製造ラインで、ロール機を停止して鋼板のきずの原因を確認し、自動運転を開始した直後、ロール機に転落してローラーに巻き込まれた。
6	2月	9時台	電気通信工事業	墜落、転落	建築物、構築物	通信ケーブルの更新工事で、架設していたメッセンジャーワイヤーを巻き取り、ケーブル支持用金具を取り外す作業を支柱上で行っていたところ、高さ約20メートルから墜落した。
7	2月	9時台	一般貨物自動車運送業	交通事故(道路)	トラック	高速道路でミキサー車を運転中、車線変更中に貨物自動車と衝突して中央分離帯に激突した後、後続車に追突された。
8	3月	7時台	その他の建築工事業	墜落、転落	足場	建築物の外壁塗装及び改修工事で、前日に塗装した外壁のうち、換気用ダクトと窓枠に付着した塗料をふき取っていたところ、荷揚げ用として足場板を取り外していた箇所から約9メートル下の地面まで墜落した。
9	3月	15時台	その他の事業	激突され	トラック	軽トラックを配達先の駐車場に駐車させて降車したところ、無人となった軽トラックが後退して道路脇の側溝に落ち、軽トラックと側溝の土手との間に挟まれた。
10	3月	9時台	産業廃棄物処理業	はさまれ、巻き込まれ	解体用機械	選別ヤードで、産業廃棄物の分別作業をしていたところ、後退する車両系建設機械(解体用)に轢かれた。
11	3月	17時台	一般貨物自動車運送業	有害物等との接触	異常環境等	貨物自動車のタンク(微粉末の石炭と窒素を入れていた)の上部ハッチを開け、次の運搬のための作業を行っていたが、安全帯に吊られ、ハッチ内部に上半身を入れた状態で発見された。
12	3月	16時台	その他の建設業	はさまれ、巻き込まれ	機械装置	事業場構内で廃棄物収集用のアームロール車に、廃棄物を入れた専用コンテナを積む作業中、コンテナが車両のガイドローラーから外れ、フックからも外れ、側方へ転倒し、下敷きとなつた。
13	4月	13時台	その他の建設業	墜落、転落	足場	高速道路高架橋の高欄補修工事で、つり足場の組み立て作業中につりチェーンの上部支持部となる鉄骨クランプが外れたため足場が傾斜して3.6メートル下に墜落した。
14	4月	16時台	道路建設工事業	転倒	整地・運搬・積込用機械	法面工事で使用したラス金網をドラグショベルの爪でつり上げて走行したところ、機体が前のめりに転倒し、運転席から投げ出された運転手がドラグショベルのアームの下敷きとなつた。
15	5月	15時台	その他の化学工業	激突され	コンベア	移動式傾斜ベルトコンベアの水洗い作業後に当該コンベアを人力で押していたところ横倒しとなり、その下敷きとなつた。
16	5月	16時台	セメント・同製品製造業	墜落、転落	建築物・構築物	硅石サイロ内部でドラグショベルを運転中、サイロ中心部の硅石が陥没したためドラグショベルが後方に転落し、運転席から投げ出された上に硅石が覆い被さり上半身が埋没した。
17	5月	11時台	ゴルフ場業	転倒	その他的一般動力機械	ゴルフ場のコースに砂を撒く作業準備で、砂の散布機を機械倉庫から駐車場に移動するために走行中、散布機が転倒し、通路上に投げ出された。散布機は5メートル進んだ位置で停止していた。
18	6月	10時台	その他の港湾運送業	はさまれ、巻き込まれ	フォークリフト	上屋に保管する鋼板コイルを軽(はしけ)に積み込むため、積載能力が20トンのフォークリフトを使用して鋼板コイルを運搬中、沿岸を移動していた労働者を当該フォークリフトの左前輪で轢いた。
19	5月	14時台	ビルメンテナンス業	墜落、転落	その他用具	高さが約1.9メートルの建物の屋上からロープを吊るして、屋上からブランコ作業を行う際ところ、屋上付近からロープとともに地上に墜落した。
20	5月	11時台	その他の廃棄物処理業	墜落、転落	トラック	トラックによるゴミ収集作業で、移動する際にトラックの荷台に乗ったまま移動了解の合図があったので、運転手は トラックを発進させたが、発進直後にトラックの後部で異音がして、道路上に墜落して頭部から出血している被災者を発見した。

広報版		平成27年死亡災害(1月から12月末日までの把握分)					
件数	災害発生		業種	事故の型	起因物	発生状況概要	
	月	時間	小分類	分類項目	小分類		
21	6月	10時台	その他の金属製品製造業	飛来、落下	クレーン	橋形クレーン(つり上げ荷重が30/10トン級)の補巻を用いて、H形鋼材(重さ約2トン、長さ約12メートル、692×300メートルメートル)をクランプ2点でつり上げ、コンペアに運搬した後に、クランプを外して走行操作をしたところ、片側のクランプがH形鋼材に引っ掛けられH形鋼材が崩れてクレーン運転士の腹部に落下した。	
22	6月	2時台	一般貨物自動車運送業	交通事故(道路)	トラック	大型トレーラーを運転中に、下り坂カーブを曲がりきれずにガードレールを突き破り、約40メートル下の県道に転落し炎上した。	
23	7月	16時台	その他の卸売業	激突され	フォークリフト	最大荷重が2.9トンのフォークリフトを運転し、トラックの荷台から円盤状の重量3.15トンの鋼材スクラップの荷下ろし作業中、フォークリフトが前方に傾くため、フォークリフト後部のカウンターウェイトに浮き上がり防止用として載せていた重量0.94トンの固定されていない重りが運転席側に倒れ、被災者の背中にのし掛かり、ハンドルとおもりに腹部がはざまれた。	
24	7月	9時台	パン、菓子製造業	はさまれ、巻き込まれ	エレベーターリフト	鋼製搬器を電動チェーンブロックで吊り下げて昇降路内を上下して荷を運搬する装置を使用し、製品用容器を作業場2階に運搬する作業で、搬器を1階に降ろす操作をしたもの搬器が下がって来なかったため、状況の確認に作業場2階に上がった被災者が、2階床と搬器に挟まれた。	
25	7月	19時台	一般貨物自動車運送業	墜落、転落	開口部	建物内の3階でベルトコンベアで廃棄段ボールを搬出中にベルトコンベアの端部の開口部から1.1メートル下の1階の段ボール圧縮機に墜落し、段ボール圧縮機に押しつぶされた。	
26	7月	13時台	その他の金属製品製造業	はさまれ、巻き込まれ	金属材料	ホイスト式天井クレーンを用いて、梁材にホイストを近づけようとクレーン操作をしていたところ、被災者の後方から梁材が倒れてきて、作業中の梁材との間に挟まれた。	
27	7月	17時台	新聞販売業	交通事故(道路)	乗用車、バス、バイク	夕刊配達で公道をバイクで走行中、台風による大雨のため道路の通行止め用の遮断板に衝突した。	
28	8月	10時台	警備業	高温・低温物との接触	高温・低温環境	鉄道線路脇の除草作業で側道の交通誘導業務中に体調不良を訴え、救急搬送先の病院で治療を受けていたが翌日の午後に死亡した。	
29	8月	5時台	製鉄・鉄鋼・圧延業	墜落、転落	その他の装置、設備	トラクターショベルを運転して原材料をホッパーへ投入する作業中、配合槽上部の高さ1.1メートル、中さん2段、金網張りの墜落防止用手すりの内側の開口部から約4.9メートル下の配合槽内に墜落した。	
30	8月	11時台	その他の建設業	感電	送配電線等	鋼製足場の組み立て作業中の高さ約8.8メートルの足場上で、近接した動力配線に接触し感電した。	
31	8月	5時台	一般貨物自動車運送業	交通事故(道路)	トラック	兵庫県から岡山県方面にトラックを運転中に信号待ちで停車していた中型トラックの後部に追突した。	
32	8月	19時台	港湾海岸工事業	墜落、転落	その他の乗物	運搬船航路にある流木除去のため、流木を沖に向かって曳航し、曳航ロープを外す際に海上に転落した。なお、被災者は救命胴衣を着用していたが死亡が確認された。	
33	9月	11時台	一般貨物自動車運送業	墜落、転落	高所作業車	引越作業で高所作業車を使い、ビルの窓から書類等が入った荷の段ボール箱を地上に搬出中、パケット内の被災者が荷崩れを起こした段ボール箱と共に地上に墜落した。	
34	5月	11時台	警備業	交通事故(道路)	乗用車、バス、バイク	巡回警備のため社用車の軽自動車を運転して公道を走行中、緩やかな右カーブで中央ラインを超えたところに、対向車線を走行してきたトラックと正面衝突した。	
35	9月	19時台	一般貨物自動車運送業	はさまれ、巻き込まれ	トラック	客先の事業場構内で、トラックを出荷バースに接車後、トラックへ積み込み作業中、製品積載パレットを2枚積み込んだ時に、トラックが前方に動き出したため、トラックを止めようとして前方に回り込んだ際に転倒してトラックの左前輪に轟かれた。	
36	4月	11時台	一般貨物自動車運送業	その他	起因物なし	客先で商品を降ろし、トラックを移動させている途中で冷や汗が出て、車内で動けなくなり、病院へ搬送されている間に心肺停止となり、蘇生処置を施されるも、病院にて死亡が確認された。	
37	9月	13時台	各種商品小売業	転倒	トラック	商品の配達先において、トラックの荷台からビールケースを持ちながら後ろ向きに下りる際に、後方に転倒して、地面で頭部を強打して、意識不明であったが、2週間後に死亡。	
38	10月	11時台	産業廃棄物処理業	はさまれ、巻き込まれ	コンペア	碎いた建築廃材を搬送するベルトコンベア上から廃材を選別する作業で、一旦停止させていたコンペアを再稼働させた直後、被災者はベルトコンベアの下部にあるベルト折り返しブーリー部に巻き込まれた。	
39	10月	8時台	その他の事業	有害物との接触	有害物	倉庫会社の岸壁に停泊中の貨物船において、品質検査のため同船に乗り込んでいた被災者が船倉内で倒れているのを荷揚げ作業員が発見した。 なお、貨物船にはトウモロコシが積まれており、発見直後に酸素濃度を測定したところ、基準値を下回っていた。	

広報版		平成27年死亡災害(1月から12月末日までの把握分)				
件数	災害発生		業種	事故の型	起因物	発生状況概要
	月	時間	小分類	分類項目	小分類	
40	10月	11時台	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	墜落、転落	階段、栈橋	はしごを用いて建物2階の外窓のシーリング打替え作業を行っていた時に地上へ墜落した。
41	10月	14時台	パルプ・紙製造業	有害物との接触	その他の危険物、有害物等	殺菌水の調合設備でつくられた試験水(次亜塩素酸ナトリウムと水と希塩酸の混合水)のPH(ペーハー)確認を職長一人で行った際、異臭を感じ、救急車で病院へ搬送されたが、翌日入院先の病院で死亡した。
42	10月	1時台	新聞販売業	転倒	作業床、歩み板	車に配達用の新聞を積み込む作業をしていたところ、転倒して後頭部を床に打ち付けたが、引き続き6時間ほど業務を行い、所定終了時刻にて退社。翌日の朝に病院を受診したところ、そのまま入院となり3日後に死亡した。
43	10月	10時台	一般貨物自動車運送業	墜落、転落	乗用車、バス、バイク	被災者が帰宅する前に駐車したトラックに通勤用の自家用車を横付けして屋根に上がって、トラックのコンテナに付いた傷をコンバウンドで磨いていたところ、屋根から墜落した。(推定)
44	10月	7時台	その他の金属製品製造業	はさまれ、巻き込まれ	フォークリフト	フォークリフトを運転して、倉庫から出るときにシャッターを閉めようとフォークリフトに搭乗したまま体を乗り出して、出入口横にある開閉ボタンを押そうとした時にブレーキペダルの踏み込みが完全ではなかったため、労働者が体を乗り出したままフォークリフトが前進し、シャッター前の衝突防止用ポールとフォークリフト左後部にはさまれた。
45	11月	10時台	その他の産業廃棄物処理	はさまれ、巻き込まれ	その他の一般動力機械	不燃物を搬出するため、ごみ焼却後に選別され不燃物コンペアに溜まった不燃物をトラックの荷台に落とす作業を一人で行うため、脚立に跨った状態で、バンカー底面の水平に可動する底板とフレームの間に首付近を挟まれているところを定時点検を行っていた労働者に発見された。
46	11月	14時台	その他の卸売業	崩壊、倒壊	荷姿の物	製品である圧縮した古紙の塊(重量:約1トン)を搬出前に工場内で6段に積み上げて保管していたが、被災者が工場床の清掃作業中に崩壊し、その下敷きとなった。
47	11月	17時台	その他の産業廃棄物処理	交通事故(道路)	乗用車、バス、バイク	自社ヤードで雑貨のコンテナ詰めを行い、品物を納入し終わった貨物自動車のヤード出場を誘導するため公道に出たところ、走行してきた自動車にはねられた。
48	11月	15時台	一般貨物自動車運送業	交通事故(道路)	トラック	古紙を積込んだトラックを運転し、愛知県から鳥取県方面に阪神高速を走行中、上り線と本線との合流の左カーブを曲がりきれずに、進行方向の右側壁に衝突した後、車線合流後の右側壁に再び衝突した。
49	12月	11時台	一般貨物自動車運送業	飛来、落下	玉掛け具	新築工事現場で、つり上げ荷重が4.9トンの移動式クレーンで荷降ろし作業中につり荷が落下し、破損した部材が付近で別の作業をしていた被災者に当たり、後方に転倒して後頭部を地面に打ちつけ2日後に死亡した。
50	12月	9時台	その他の建設業	墜落、転落	屋根、はり、もや、けた、合掌	住宅改修工事において、不要の仮設電線を撤去するため屋根上で作業を行っていた被災者が、約30メートル下の1階床に倒れているところを発見された。